

令和 8 年度



幼稚園だより 9月号

文京区立小日向台町幼稚園

大切な命を守る

園長 小岩井 聡

今日から2学期がスタートしました。夏休みに会えなかった友達との再会や幼稚園での生活を心待ちにしてくれていた子ども多いと思います。

夏休みには、子どもたちはどのような楽しい経験をしてきたのでしょうか。友達や先生に楽しかったことを、自身の言葉や身振りでたくさん伝えようとしてくれています。夏休みという特別な時間の中での経験は、子どもたちにとって「大切な宝物」となったはずです。

しかし子どもたちにとっては楽しい夏休みも、保護者の方は「災害級の暑さ」と言われる中で、いつも以上に暑さ対策に気を付けて過ごされたことでしょうか。大変だったと思います。

2学期をみんなが揃って、元気でスタートできるのも、保護者の皆様の愛情と細やかな配慮や支えがあってこそだと感じます。

また、今年の夏は、猛暑だけでなく、各地で大きな災害が発生しました。7月28日に発生した「令和8年熊本地震」、8月13日から14日にかけて千葉県を襲った「令和8年8月千葉豪雨」などがあり、この巻頭言を書いている最中にも、福井県では集中豪雨で家屋や道路が冠水したり、ネパールや中国では、氷河の崩落が原因と言われている巨大な土石流が発生したりと、次から次へと自然の恐ろしさを感じさせるニュースが聞かれました。多くの尊い命が失われたことを聞くと、胸が痛くなります。犠牲になられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、一日も早い復興を祈念するばかりです。

9月1日は「防災の日」です。区内の幼稚園、小学校、中学校では一斉の引き渡し訓練も実施されます。保護者の皆様にも毎年真剣にご参加いただいております。この訓練は9月1日が「防災の日」であることから、この日に実施されております。

なぜ、9月1日が「防災の日」なのでしょう。それは1923年（大正12）年9月1日に「関東大震災」が発生したからです。10万5000人の方が被害にあわれたと記録にあります。ちょうど発生時刻が11時58分。昼食の準備などで、当時は七輪やかまどで火を使っており、火災が広範囲に発生したことも被害の広がった大きな要因であったそうです。また、関東大震災だけが理由ではありません。9月1日は暦の上で二百十日にあたり、台風シーズンを迎える時期（警戒期）であること。昭和34年9月に戦後最大の被害をもたらした伊勢湾台風があったことも契機となっているそうです。（東京消防庁HPより）

大きな災害はいつ、自分の身に降りかかってくるか予想できません。だからこそ、いざという時に備えて、避難訓練が大切になってきます。状況を想像しながら、実際に自分の命を守る行動をする。その行動の意味や大切さは、東日本大震災などを知っている私たち大人が、子どもたちに伝えていかなければなりません。子どもにとっては未知の大きな地震を想定した訓練でも、大人にとっては実体験を伴う訓練ですから。

いかなる時も、子どもたちの安全を守るのは大人の務めです。

親子で引き渡し訓練を経験した今日、お子さんと改めて大切な命の守り方について一緒に考えてみてはいかがでしょうか？

